

木造校舎のアトリエから 鳥取の自然美を発信

母校への思い

福田典高さんは小学1年生から高校3年生までを国府町で過ごし、18歳で上京。以来、出版社などでイラストレーターとして活動するかたわら、定期的に帰郷し、鳥取の地で絵画の制作や指導を行っていました。「定年間近になったころに、母校の成器小学校が廃校になることを聞いたんです。そこを巣立った子どもたちの記憶がしみ込んでいる木造の校舎は、廃校になっても残さ



福田 典高 さん
Noritaka Fukuda

アトリエ小学校

なければと思いました」と福田さん。地元のみんなに話したところ「じゃあお前が使い方を考えるということ、私のアトリエとして活用させてもらうことになりました」と当時の経緯を振り返ります。そして平成14年、福田さんは会社の定年と同時に、奥さんと一緒に鳥取へ移り住みました。

鳥取の暮らしに満足

東京での仕事や生活には、どうしても満足できませんでした。出版社勤めなので、注文に応じて締切までにイラストを描かなければなりません。「以前は、やりたいことがやれないという欲求不満がずっとありましたね。今は、それができる充実感でいっぱいです。絵も満足いくまで描き直してきますしね」と目を輝かせます。「都会というのは設計図に従ってできていて、人間の生理とは合わないけど、鳥取には人の手では作れない自然がある。そして、季節の移り変わりにもスピードを感じる。鳥取の自然に対



地域の人の協力でも美しく保たれている旧成器小学校の木造校舎

する愛情と信頼が、私の生きるテーマなんです」。福田さんは鳥取の暮らしに満足。現在も、自然や農村をテーマにした作品を精力的に制作しています。

絵画の指導

もうひとつ、福田さんが力を入れているのが絵画の指導です。教室に来られるのは、孫の手が離れた年代の人が多いそうで、指導を受けるとみなさんが見る間に絵が描けるようになり、3年たてば

佐治天文台長

香西洋樹の「暗い夜空が教えるもの」

Vol.20 天文ショー

1972年の10月、33年ごとに繰り返す流星雨の出現が期待されていました。夜空は年を追う毎に明るくなり、よほど暗い場所に行かなくては、天の川や北極星も見難くなってきていました。一部の天文アマチュアの間では、このころ「^{ひかりがい}光害」という言葉がささやかれ始めていたのです。

そのため、環境庁(当時)へこの状態を訴え、近いうちに期待される流星による天体ショーを多くの人に楽しんでもらうために灯火自粛を陳情したのです。このとき、環境庁の大石長官に驚きを与えたのが、先日登場した一枚の写真でした。もっとも、1回だけの写真ではその時の状態しか分かりません。幸い5年の間隔を置いて1972年3月に撮影していた写真と比較することができ、大きなインパクトを世間に与えたのでした(写真上が1967年、下が1972年に撮影したもの)。



1967年2月



1972年3月

環境庁がこのあふれた光の対応に乗り出し、夜空を明るくする光のうち生活に無関係で不要な光を制限し、夜空で繰り広げられる天体ショーを多くの人と共有しようとの試みが始まったのです。

たった一夜だけの試みでしたが、暗くなった夜景は星空をよみがえらせ、多くの人に安らぎと感動を呼び戻したのでした。

StarWorld
見上げてごらん



国府町のブナ林を描く

一人前に。「最初はみなさんキャンバスを前に途方に暮れているんですが、ノウハウを伝えればどんどん描けるようになっていきました。アトリ工小学校の廊下には受講生の見事な作品がたくさん展示されました。福田さんは小学校と中学校でも指導

しています。「子どもたちには、ふるさとの風景を『好きなだけ、きれいだな』と感動しながら描いてほしいと伝えています。そうすれば、都会に出てても故郷との強い絆が残るんですよ」と思いを込めます。

喫茶店で井戸端会議

アトリ工小学校には、奥さんが運営するCOFFEE談話室もあり、地域のみなさんが訪れて、いつもにぎわっています。「以前はこの村にも井戸があり、村の人が集まって井戸端会議をしていたん

でしようが、今は集う場がなくなりまして。そこに喫茶店ができて、みんなが集まれるようになったんですね」と福田さんは目を細めます。学校の物置を改造して作った「お化け屋敷」も、家族連れやカッブルに人気で、福田さん自身が操作してお客さんを怖がらせます。

変わらない鳥取を描く

福田さんが鳥取にUターンして6年。「市街地はすっかり都会になりましたね。農村の方は過疎化が進んでいるよ

うです。ただ、自然の美しさは変わりません。これだけ水のきれいな地域は、よそにもありませんよ。袋川の源流に分け入って、新鮮な水や泉を絵に残していきたいと思っています。そうすることで『鳥取にはこんな財産があるんですよ』と伝えられるんです」と、これからの意気込みを語ります。

地域のにぎわいの核となつた国府町のアトリ工小学校から、福田さんは絵画を通じて鳥取の魅力をますます発信してくれたいでしょう。